孝行口説

(一)

凡そ世間に居る人や　貴賤貧富の
差別なく　親に生さらん人はなし

（口説）

イヤイヤ言やりる如さみ　口説の主取い
親に生さらん　人やうらんさ　やりばようよう
親に孝行　豊しくするてい　昔の聖人
書物ぬ数々　和歌の概ね　念佛さまさま
戒しみさりしが　人間ならわし　時にゆってや
素むち腹立ち　大いに勘違げ　怒に巻かして
親に口いし　兄弟諍い　あさましむんさみ
胸に思染み　天罰恐りり　うとうるしむんさみ
ハイヤーさぁっさー

(二)

親や我が身の元なりば　元ゆ忘りる
ことやなし　まじや十月になるまでいん

（口説）

イヤイヤ　なる程あんさみ　口説の主取い
十月の日数や　三百日さみ　うぬ間段々
母を苦しめ　生まれ出ずれば　二人の親とも
心や許さん　夜昼困難　衣装かりくり
食べ物色々　言うにや及ばん　夏の暑さや
扇さっとて　うしなでいけーなでい
冬の寒さや　抱きかかえて　懐はなさん
風邪にん引かさん　くり程さまざま
大切さりしが　人間ならわし　時によってや
身しち鼻しち　肌ゆふむきば　我親あわてて
手足くん折て　医者ユタ頼どて　神に願立てい
あたら我が身と　替えて病むなと　我子の息災
たき程願ゆる　他には　何の望みん
何の宝んあるまじ
さみさて　ハイヤさあっさー

(三)

親の生身の時なかや　深く孝行や
なさなそうて　死後に悔やんでも益はなし

（口　説）

イヤイヤ　一々最とうむ　言やりる如さみ
生身の時にや　不孝しーうてい
死後にさまざま　悔やみ悔やどてい
銭金尽くしょてい　餅菓子いるいる
飾い並びてい　祭たんてーかー
生身の時でぬ　雑炊粥にん　格別劣ゆさ
またまた　くり程かなさる　妻女に例いてい
くりや失なてい　又ん得らりん　一度失なてい
二度とう得ららん　親どうやっさみ
子の人情　くりゆ思いば　ぬんで孝行
粗相に思ゆが　孝心ある人どう
君の前にん　忠節尽くする　友達朋輩とうん
諸人中にん　和睦交じわてい　竹の子の如
行末繁盛　幾世の末まで　百々果報絶ゆらん
たった勝とてい　うっさふくらしゃ
ちゃがちゃが　アリィヤサァさあっさー

（四）

昼や夜中も限りなく　子を思わぬ
時はなし　くり程深さる親の恩

（口説）

さていむ　んちゃまた　言やりる如さみ
朝夕我親の　思ゆる念願や
家内治むる　年頃ないねぇ　縁ゆ求みて
妻女迎いて　我子の行末　ゆたさるように
神や仏に　手やすりすり　念願さりゆし
またまた　世間に出でい立ち　友達朋輩とん
付き合いされしが　むしか万一
悪しき友達にん　手取り引かりて　災難事にん
合いやせぬかと　未だ目に見らん
先の事まで　心苦しく　思いんする故
一期一生　ぬーにん限らん　子の為にや
思わんくとうでぬ　あゆみ人のちゃ
この事聞かりり　親の煩悩　子の畜生
世間の色事　かなし我親や　無蔵なむぬさみ
ハイヤ　さあっさー